

庄内北部定住自立圏共生ビジョン懇談会 議事要旨

日 時 | 令和5年1月30日(月)

午後2時～3時30分

場 所 | 酒田市役所7階 703号室

出席委員(5名)

阿部建治 委員 富士直志 委員 熊田洋勝 委員 佐藤道子 委員 菅原三康 委員

欠席委員(2名)

阿部勝志 委員 工藤 隆 委員

~~~~~

### 1 開 会

(略)

### 2 あいさつ

(略)

### 3 報告事項

- (1) 第2期庄内北部定住自立圏共生ビジョンの取組状況について  
資料1に沿って事務局より説明。

#### ○委員

定住自立圏の事業は総務省の事業で、それには交付税があるようだ。酒田市の交付税はどのくらいか教えていただきたい。

#### ○企画調整課長

庄内北部定住自立圏特別交付税措置の状況は、令和3年度は、1市3町で、9,921万円である。令和4年度は、1億90万3千円となっている。

#### ○委員

1期目に比べて交付税はどう推移しているのか伺いたい。また、この交付税が、庄内町、三川町、遊佐町には、どういう形で還元されていくのか伺いたい。

#### ○企画調整課長

特別交付税の措置状況は、当初より若干上がってきている。この金額は1市3町の合計額であり、1市3町別々に交付税措置されている。

○委員

三川町、庄内町は、庄内南部にも跨っている。この場合、庄内北部と庄内南部どちらからも交付税措置があるのか。

○三川町企画調整課長

庄内北部、庄内南部それぞれに連携事業があり、その連携事業に対して交付税措置されている。

○委員

連携事業を中止した場合、交付税は国に返すのか。

○企画調整課長

当初の事業予算をベースにしているが、先に交付されるものではないため、最後に精査する形になる。

○委員

一つ目に、資料1の5ページ、No.3 医療機関の連携とNo.4 調剤情報の共有について伺う。令和3年度は、どちらも遅れているという評価となっている。ただ、令和4年8月31日時点では、医療機関の連携は令和6年度の目標を大幅に超過している。新型コロナウイルス感染症の影響により、開催中止や実績が低下している現状の中、どのような方法で進捗を図ることができたのか教えていただきたい。No.4の調剤情報の共有については、同じように目標に到達するよう引き続きお願いしたい。

二つ目に、19ページのNo.31森林病虫害等被害対策事業について伺う。庄内沿岸のクロマツ林における松くい虫の被害量は、平成28年度に過去最大の3万1,228立方メートル。その後、国、県、市町の被害木の伐倒や、薬剤散布などの取り組みにより、減少傾向にあると思っている。資料2の令和4年度の予算額には、酒田市、遊佐町合計で1億1,260万円が計上されており、森林支援事業交付金として、国が10分の5、県が10分の2となっている。どのような取り組みを実施しているのか教えていただきたい。

また、県森林研究研修センターで開発に取り組んできた抵抗性クロマツの苗木が、令和3年頃から庄内沿岸に植栽されていると聞いている。これまでどの位植栽されたのか教えていただきたい。

○健康課長

No.3 医療機関の連携（ちょうかいネット）は、日本海総合病院を中心に行っている取り組みで、日本海総合病院の患者の情報を開示して、医療機関、薬局、介護施設でカルテを見られるようにするシステムである。医療機関は、ほぼ参加している状況だが、薬局関係と介護施設関係は少ないため、病院と連携をしながら参加してもらうよう進めていきたい。

薬剤情報については、いくつかの医療機関にかかった場合、同じ薬が出てしまうことがあるが、薬局でチェックできるようになり、患者さんにとってメリットがある。全部の薬局に広がっていないため、こちらも日本海総合病院を中心に行っていることから、協力しながら進めていきたい。

## ○農林水産課長

松くい虫の状況については、平成28年に大発生してから、鶴岡市、酒田市、遊佐町、国有林庄内森林管理署、山形県森林整備課、クロマツの関係者が一堂に会したプロジェクト会議が設立され、被害状況の把握と駆除を連携してやっている。松くい虫は、昭和54年から波があり、平成6年、平成14年、平成28年に繰り返し増えている。平成28年の後、国、県から予算を出していただき、令和2年まで減少傾向にあった。松くい虫は、松が弱った時に入り込むため、天候の影響で松が弱る年度に松くい虫が増える傾向にある。国、県、市町、一体となって取り組んでいるが、令和2年以降、大雪や暴風雪の影響で予断を許さない状況となっている。令和4年度の状況については、2月に県が事務局となっているプロジェクト会議が開催され、公表される予定である。

抵抗性マツの植栽状況についても、このプロジェクト会議で取り組み状況が公表される。令和3年度は、遊佐町の日向川の近くに、山形県が0.4ha、1,000本と聞いている。高速道路の近くでも、0.04ha、250本。平成30年から抵抗性マツの生産を始め、年々増えているが、間伐の中ではなく全部伐採された所に入れており、ボランティア団体や県の計画に沿い、希望がある場合にやっている状況である。苗については年々増えており、令和2年度は5,500本、令和3年度は1万5,000本、令和4年度は1万1,000本の計画で、3年位かけて出荷している。酒田市では、令和2年度に山形県で250本、令和3年度は0.4haで浜中と十里塚で植えている。

## ○委員

ちょうかいネットに関してだが、先日、知人が具合が悪くなり、かかりつけ医に電話したところ、救急車を呼ぶように言われた。その際、病状の経緯を書いたものを渡すので先に取りに来るように言われたが、対応できる家族が他に一人しかいなく大変だったと聞いた。かかりつけ医が家から遠い場合もあるため、ちょうかいネットで繋がっていれば取りに行く苦労もなくなるのではないかと実感した。早急に連携を進めていただきたい。薬局についても、なるべく早く対応していただければと思う。

また、このような場合に対応する医師の経費はどうなっているのか。また、マイナンバーカードと健康保険証が一体となるが、自分の医療費や治療内容のデータがどこに保管されるのか。マイナンバーカードと健康保険証の機能について教えてほしい。

## ○健康課長

ちょうかいネットの仕組みは、日本海総合病院、酒田リハビリテーション病院、本間病院、余目病院がカルテを開示し、ちょうかいネットに参加している開業医が、開示されているカルテを見られるだけとなっている。開業医がちょうかいネットに入っていたとしても、開業医の情報を病院側に送ることはできない。ちょうかいネットを利用できるのは、この病院に通院している方の分のみのため、それ以外の方のカルテは見られない仕組みになっている。今回のようなケースがあったことを病院側や医師会の方にも伝えさせていただきたい。

薬剤情報については、システムを導入することで、重複投与がなくなり、患者さんにとってのメリットと、行政側にとっても国民健康保険や後期高齢者医療の医療費削減につながる。

マイナンバーカードについては、例えば、マイナポータルで自分の健康診断の結果を見ることができる。電子処方せんは始まったばかりだが、マイナポータルにある自分のページに、いつ、何が投与されたかが載るようになる。

○委員

マイナンバーカードを入れた時に文章が出てくるが、それは自分のデータがどこかに保管され、公に見られてもいいかといった問い合わせのように感じていた。それとちよいかいネットが繋がっているものと誤解していた。

○委員

7ページのがん検診の取り組み状況について伺いたい。5、6年前、酒田・鶴岡の胃がん、大腸がんの死亡率がワースト10に入っていた。そこから少し良くなっているようだが、酒田市総合計画のデータでは、それほど改善していないという報告があった。今回の検診率の状況は、ある程度50%に近づいているが、胃がんだけはかなり低く、増えていない。検診率が一番高い庄内町でも、胃がんは40%に届いていない。胃がん・大腸がんは、婦人科や肺がんに比べて罹患率が高いにも関わらず、検診率が低い原因についてどうお考えか。

○健康課長

酒田市の胃がん検診率が低い原因については、内部で分析を進めている段階だが、一つに高齢化が挙げられる。胃がん検診はバリウム検査になるため、高齢になるほどバリウムが飲めなくなり、検診率が下がっているのではないかと分析している。

○委員

地方によって高齢化が進行しているため、検診率を上げるのは難しいと思うが、バリウムでは見つからないケースがかなりあると医師から聞いている。内視鏡検査への補助はどういう状況か。

○健康課長

内視鏡検査の導入については、以前話があったが、費用が高いことがあり難しいという話になった。内視鏡の場合、一人が使った後洗浄しなければならず、すぐ次の人が使うことができない。一つの医療機関で2、3個と持つやり方になり、洗浄機も買わなければならない。非常にコストがかかるため、普及させるのは難しい。

○委員

酒田・鶴岡の、胃がん、大腸がんの死亡率がワースト10に入っていた時の説明に、裕福な自治体は死亡率が低いが、お金のない自治体は死亡率が高いとあった。塩分の関係ではないということだった。ある大きな町では、内視鏡検査に補助をしている。新潟市では一時全額補助したようだ。例えば、毎年は無理でも一定の年齢で内視鏡に補助するといったことをしない限りは、検診率は上がっていかないと思う。連携事業の50万円の予算ではキャンペーンにも限界があるため、もう少し抜本的なことをする必要があるのではないか。胃がんは一番罹患率が高く死亡者も多い。長生きできない町だと言われたくない。健康寿命を延ばせる町というのは、この定住自立圏の目標にもかなっているた

め、胃がんに関しては、もっともっと頑張っていく必要があるのではないかと思います。お金の問題がかかってくるが、命がかかっている。命の問題をどうするかという視点を持つべきではないか。酒田市としても問題視しているが、手をこまねいているだけでは改善されない。鶴岡市や内陸ではどう推移しているか分からないが、その辺からも知恵を拝借して、ぜひ伸ばしていただきたい。

#### ○健康課長

死亡率が高い原因の一つとして、検診後に精密検査を受けない人がいることが考えられる。酒田市の場合、精密検査を受ける人は80%位。酒田市では、最初の検診で指摘された方に対して、精密検査の案内や受けたかの確認をしているが、受診率が上がらない。令和5年度からの国のがん対策推進基本計画に、受診率の目標を50%から60%に引き上げるとしており、精密検査の受診率も90%以上としている。当然、自治体でも精密検査は90%を超えるようにしていきたいと思っている。

#### ○委員

成人病の罹患が始まるのは40代辺りからと言われている。検診を習慣付けするのはすごく大事だと思っている。1回受ければ、ためらいも軽減してくるはずである。1回も受診しないまま歳を取ってしまうと受診しなくなるため、高齢になる前に、補助を出して検診を受ける習慣づけをきちっとやっていくことも必要ではないか。バリウムも内視鏡も気持ちのいいものではないが、そういう経験を遅くない段階で始めるといったルール化も必要ではないかと思う。

#### ○委員

5、6年前に、血液一滴から99%の確率で7つのがんを見つけられるといった手法があると新聞やテレビに出ていた。唾液で検査をしてくれる民間もあるとマスコミで聞いたような感じもするが、がんを検知する新たな手法の情報があれば教えていただきたい。

#### ○健康課長

少し前までは、尿を使ってがんがあればそこに虫が寄ってくる線虫というのがあった。線虫にも種類があり、がんを見分けることができる研究をしているという話を聞いたことがある。また、ベンチャー企業だと思うが、身体的負担の少ない方法でがんを診断する手法を開発しているという情報もある。いずれにしても、医療関係のものは国の許可がないとできないため、実用化には時間がかかると思っている。

### 4 協議事項

- (1) 第2期庄内北部定住自立圏共生ビジョンの改正について  
資料2に沿って事務局より説明。

#### ○委員

32ページの高校生の地元定着の促進について伺う。定住自立圏の狙いに、流出を防いで、沢山の人に庄内に来てもらおうということがあると思う。高校生の場合、黙っていると外に出て行ってしまふ。他から入ってくる人を増やすより、一度出ていったとして

も、戻ってきてもらうことの方がやりやすいのではないかと思う。庄内は、県外就職がすごく多いが、村山地方や置賜地方は、8割から9割が地元定着している。置賜地方には米沢市と長井市があるが、酒田と鶴岡のように、酒田の人が鶴岡に、鶴岡の人が酒田に就職するといったことが少なく、県外に出る発想があまりない。庄内でも、色々働きかけて少しずつ増えてきているが、山形県のレベルからはまだまだ低い。もっともっと地域に定着する活動をやっていく必要がある。親自身も、外へ出て戻ってきている人もいるため、外に出ることを嫌がらない風土がある。小学校や中学校への働きかけはやっても高校ではやっていなかった。最近では高校でもやり始めて、コロナの影響もあるが、少しずつ庄内の定着率が伸びている。進学率が高くなってきているため、進学で県外に行った人をどうやって戻すか。就職でまた戻ってきてもらわないと、人口減少率はどんどん高くなる。酒田に住んでいても遊佐高校や庄内総合高校に通っていたりするため、高校側に働きかけることはすごく大事だと思う。高校の先生は、内陸の方もいて、特に若い先生は内陸の人が多いため、庄内の良さが分からないということもある。できれば、先生方から生徒へ、庄内はいい所、できるなら庄内に就職してもらいたいというメッセージを発信してもらう必要があると思う。何らかの機会を設けて先生方に働きかけていくことも必要かと思う。最近では、子どもの数が減って、県内の高校は定員割れが続いている状況で、県外からも受け入れている。できれば庄内に就職、或いは庄内に戻って活躍したいという人を増やしていかなければならない。庄内総合支庁でも取り組んでいると思うが、酒田市だけではなく市町で連携しながら、或いは鶴岡市とも連携しながらやっていくことが必要だと思う。

#### ○産業振興主幹

委員のご意見については、私どもも同じ認識でいる。県内のハローワーク管内でも酒田管内の地元定着率は70%に届かず、70%を目標として色々な事業を行っている。近年では、お仕事拝見ツアーとして、見学先の企業を選定し、酒田南高校、酒田光陵高校、庄内総合高校、遊佐高校に声をかけ、先生方からも同行していただき、企業を知ってもらうところから始めている。ここ2、3年は、コロナ禍の影響もあり、酒田西高校や酒田東高校からも参加していただいている。親御さんが、地元の企業にもいいところがあると子どもに勧めないと、県外に流出してしまう状況もあるため、親御さんへのそういった機会も設けて力を入れている。また、進学で県外を選択する方もいるため、仙台や新潟近県に我々が出向き、酒田の情報を提供しながら、大学卒業後は戻ってきてもらうようなアプローチもしている。

#### ○委員

県外に進学する高校生に対しても、将来ぜひ地元に戻り、地元のために頑張ってもらいたいというメッセージを発信する必要がある。今、高等学校では探究学習をメインにしている。また、18歳で選挙権もある。そういった点でも、酒田、庄内の地域を知ることが大事である。酒田市で頑張っている方々の声を生徒或いは先生方に届ける機会を設けて欲しいと高校へお願いしていくべきだと思う。それを定期的にやり、伝えていかないと、戻ってくる動機づけにはなかなかならないと思う。学校もお忙しいと思うが、探究学習の一環にもなり、選挙権の問題で地域を知ることにつながる。ぜひそういうキャン

ペーンのような活動を市町村が一体となって取り組んでほしい。この定住自立圏の3市町が揃って各高校を回ってもいい。それを定例化していけば、学校としても一つの決まった行事として機会を設定してもらえることに繋がり、また、先生方にとっても、いい取り組みだと理解していただけるのではないかと思う。

#### ○産業振興主幹

各市町、県、それぞれに同じような事業もあるため、連携しながら、地元を知り地元で定着するような取り組みを引き続きしていきたい。

#### ○座長

最後に、庄内北部圏域のさらなる連携に向けて、取り組んだ方がよいことや、市と町の連携について日頃感じていることなど、皆様よりご意見をいただきたい。

#### ○委員

この庄内北部定住自立圏共生ビジョンに載っている事業を、それぞれ充実していただくようお願いしたい。

#### ○委員

鶴岡市の庄内南部では10年近く、酒田市の庄内北部では8年、これまで懇談会をやってきたが、どうしても広域で考えていかなければならない問題が少しずつ見えてきているはずである。例えば、この組織の上にある各市町の長の会議に、庄内全体で考えなければならぬことを提言していくことができればよいと思う。

コロナが始まってから2、3年なるが、日本海総合病院の駐車場が非常に混んでいる。中に入っても、曜日によっては1、2時間待たないといけない。例えば、庄内病院や余目病院と連携して分散できないかと考えることがある。また、観光の問題や雇用関係、子育て環境の充実、広域交通網といった庄内全体で考えていかないと先に進まない部分はあると思う。懇談会の中でそういった意見があれば、上に繋げられるとなおいいのかなと思う。

#### ○企画調整課長

庄内北部定住自立圏の一番上の組織として、庄内北部定住自立圏形成推進会議があり、各市町の長がメンバーとなっている。この懇談会で、この部分に関しては1市3町が力を合わせてやっていくべきだというものが出てきた場合、推進会議に上げていくことになる。推進会議の中には、検討委員会や幹事会があるため、まずは、そこに上げていく形になる。

#### ○委員

報道によると、新型コロナの感染症が、季節性インフルエンザと同じ5類に移行するという方向性が出された。先ほどの報告の中に、コロナ禍で5つの大きなイベントができなかったとあった。ハーフマラソン、クルーズ船、酒まつり、家族プロジェクト、それから産業フェアがあるが、これらは、ぜひ可能な限り実現する方向で取り組んでほしい。このイベントによって定住が増えるということには短絡的に繋がらないとしても、地域の良さを発信していく上で大事なイベントだと思う。特にハーフマラソンは、県外

からも沢山来ていただいている。この懇談会としても、実現する方向で要望したい。

○委員

洋上風力発電の設置についてだが、県主催の会議が酒田市と遊佐町別々に行われている。新聞には、秋田県ではもう発電しており、地元に戻元されるということだった。このような時に市町が連携するべきではないかと思った。

農業に関しては、今、耕作放棄地が多い。65歳を過ぎると農業を始めたい人が結構いる。花きのサポートは庄内町であるようだが、特産品として、酒田市にはアサツキ、遊佐町にはウルイがある。耕作放棄地を無くすためにも、何かできないか。

○農政課長

耕作放棄地の解消にはならないが、野菜の産地づくりとして機械等の設備投資に市としても応援しながら、米だけでなく野菜でも農業産出額が増えるようにしている。ここ2年は、コロナの影響で出荷してもなかなか売れず、野菜等はかなりの打撃を受けた。特に庄内町と一緒にやっている花に関しては、出荷が抑えられたが、回復しつつあるため、再度、その他の支援も検討しながら進めていきたい。

○委員

今、介護士が少ないと言われているが、介護士の育成を庄内北部圏域でできないものか。

○高齢者支援課長

介護職の人材不足は、保育士や看護師と並び重要な問題だと思っている。養成する学校が庄内には無いが、高校卒業後、資格が無くても介護施設に就職し、働きながら資格を取る方もいる。しかし、高校卒業後すぐに介護施設に就職する方は稀で、働いている方の高齢化も進んでいる。若い方の人口が減っており、決め手になる施策がないが、商工港湾課のお仕事拝見ツアー等で、小学生、中学生のうちから介護の現場を知ってもらおうといった取り組みを進めていきたい。

5 その他

(略)

6 閉会

(略)